

ISO/TC 184国内審議団体及びJPC-MSD事業

事業概要

継続

標準化分野

事業略称	TC184_MSD	期間	2014～	予算元	推進協議会会員会費	事業形態	任意
概要	ISO/TC 184（オートメーションシステム及びインテグレーション）の国内審議団体の運営を中心に行う。SC 4（産業データ）については、ISO/TC 184/SC 4推進協議会に代わり、2021年度より（一社）日本自動車工業会（JAMA）、ITベンダ等が参加する、ものづくり標準データ推進協議会（JPC-MSD）を発足し、ISO/TC 184/SC 4の国際標準化活動を引き続き支援している。ものづくり標準データ推進協議会では定期的に情報交換会、ワークショップを開催し、産業データに関する国際標準化適用の観点で活動を実施している。						
ゴール	ISO/TC 184国内審議団体及びJPC-MSDの運営を実施する。ワーキンググループ、ものづくり情報交換会などを通じてJPC-MSD会員に価値のある新規事業の立ち上げを行う。						

2025年度 計画(左)／活動報告(右) [予算：1.3百万円／決算：2.1百万円]

<ul style="list-style-type: none"> ■ものづくり標準データ推進協議会（JPC-MSD） ➢デジタルデータ流通に関する活動（大手と中小企業の3Dデータ取り扱いに関するギャップと課題の検討と車・工作機械ベンダによるWG立ち上げ） ➢下記国際会議（長崎総会）の開催、SC 4関連新規事業立ち上げの協力 	<p>昨年度ワークショップ及び外部工業会活動の成果をもとにWGを発足（3D箱物切削加工WG、ものづくり情報流通調査WG）。これにより新規会員獲得に大きく貢献。総会（6/10）、幹事会6回、情報交換会4回、WG20回開催。WG活動が日刊工業新聞に掲載（7/18）。経産省事業化提案を実施。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■産業オートメーション標準化推進（IASP） ➢ISO/TC 184、IEC/TC 65関連活動、工業会連携活動状況共有、投票案件審議、標準化課題と対策について協議 	<p>IASP委員会を5回開催し、ISO/TC 184、IEC/TC 65関連活動状況を共有、投票案件を審議。さらに標準化の課題と対策について、各TC 184/SCの国内委員長が提示し、委員間で対策を協議。来年度の方針を整理した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ISO/TC 184/SC 4国内対策委員会 ➢国際会議報告・SC 4投票案件を審議 ➢ISO 10300-62規格開発（METI事業EQVv2）の継続（仕上げ）推進 ➢SC 4新規事業立ち上げの推進（METI事業PDQv4） 	<p>JPC-MSDの支援を受け、SC4国内対策委員会を4回開催し、SC 4国際会議（5月(米国)、10月(日本：長崎))の報告・投票案件を審議した。ISO 10300-62 ed.2国際規格が9月に発行され、日本規格協会のトピックスに申し込み、Webサイトに掲載された。新規METI事業（PDQv4）の公募提案が承認され、正式に事業化し、標準化を推進した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■日本開催の国際会議（ISO/TC 184/SC 4@長崎 出島メッセ長崎） ➢エンジニアリング協会と協力し、共同開催に向けて準備 	<p>10/25～10/31に開催。17カ国、110名超（ハイブリッド）が参加。MSTC主導でエンジニアリング協会共催。上層会議、WG、公開シンポジウムを開催。成功裏に終了し、議長や各国委員から運営のあらゆる側面で高い評価を獲得。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ISO/TC 184/SC 5国内対策委員会 ➢SC5関連の投票案件の審議、下記日本主導の規格開発の継続 ISO 20140-5規格開発（METI事業：環境影響評価） ISO 16400-4,-5,-6規格開発（METI事業：動的装置モデル） 	<p>SC5関連の規格開発を推進、投票案件を審議。左記METI事業をもとに規格開発を推進した。また、次年度以降の活動継続のため、「ISO/TC 184（オートメーションシステム及びインテグレーション）の国際活動に関する標準化活動」というタイトルで提案書を経産省に提出。</p>

ISO/TC 184国内審議団体事業

2025年度の成果と今後

- ISO/TC 184関連国際会議に委員を派遣するとともに、国際規格開発に対する国内の対応・意見を纏めるため各種国内対策委員会を開催し、国際会議での議論、国際規格投票へ反映。並行で標準化の事業提案も実施。
- 標準化普及に関わるMSTC自主事業（IAF、FAOP、MSD）で国際標準化活動（標準化事業、IEC/SyC SMなどの外部委員会での活動状況）を報告。また、標準化普及と異業種連携に関して提案と意見交換を実施。
- Industrie4.0 & Smart Manufacturingの国際標準化の議論が進む中、ISO/TC 184とIEC/TC 65とのJoint WG 21（Smart Manufacturing Reference Model(s)）に関わる会議体に委員を派遣し、直接的かつタイムリーに情報を収集し対応。並行でデータスペース（ウラノス・エコシステムなど）、デジタルプロダクトパスポート、サーキュラーエコノミーに関して調査を実施。
- SC 4長崎総会 公開シンポジウムの講演者としてウラノス・エコシステム推進協議会（OEPC）理事長を招聘。
- 今後は、上記活動を国内審議団体として推進するとともに、標準化普及・異業種連携に関わる活動を継続。

■ ISO/TC 184事業とデータ共有基盤（ウラノス・エコシステム）を支える標準群

経済産業省の委託事業として、ISO/TC 184において日本主導の国際標準化を推進するアーキテクチャ。

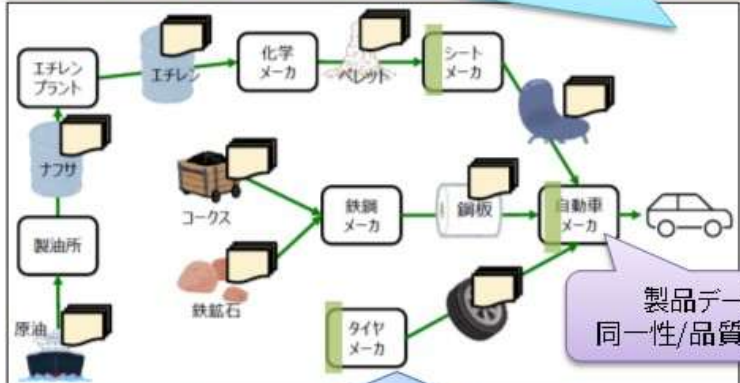


ISO/TC 184国内審議団体事業

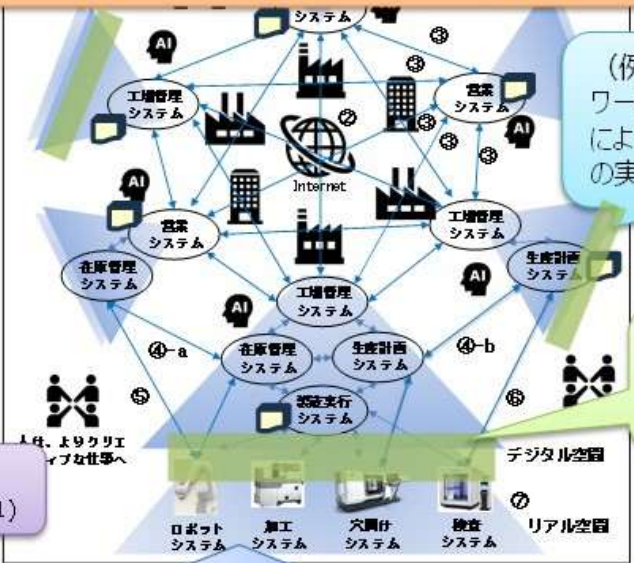
■ 事業の位置付け. 日本/MSTC主導規格とデータスペースとの関係

- (1) 製品データの同一性検証規格 第2版に関する国際標準化：ISO 10303-62【同一性検証】／ISO 10303-59【製品データ品質】
- (2) グローバル・サプライチェーンに関わる生産システムの環境影響評価データの国際標準化活動：ISO 20140【環境影響評価】
- (3) スマート製造分野における動的製造装置モデルの活用に関する国際標準化：ISO 16400【動的製造装置モデル】
- (4) 生産ソフトウェアシステムの協力的デジタル連携ネットワークの構成に関する国際標準化：ISO 16518【動的協調ネットワーク】

(例) 動的協調ネットワーク上で様々な産業セクタ連携によるサプライチェーンの構築
 ※ DPP対応など様々な産業セクタの環境データ(2)の交換(4)
 ※ 受け取った製品データの利用可否を判定(1)



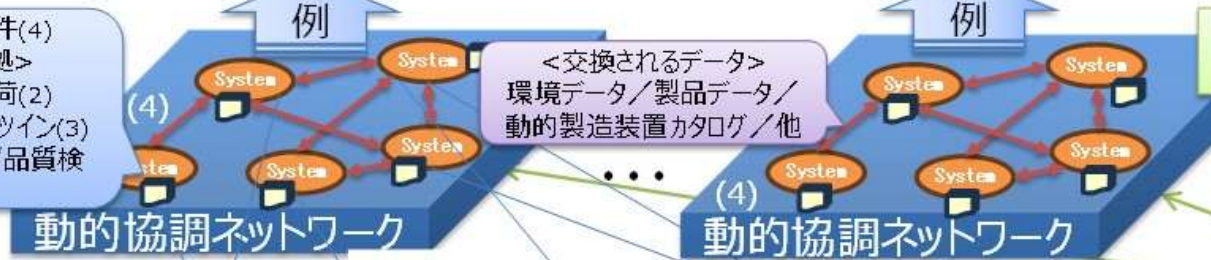
製品データの同一性/品質検証(1)



(例) 動的協調ネットワーク上の企業間連携によるグローバル生産の実現

動的製造装置モデル(カタログ)を使ったシステム検証(3)

委託先条件(4)
 <標準準拠>
 # 環境負荷(2)
 # デジタルツイン(3)
 # 同一性/品質検証(1)、他



<交換されるデータ>
 環境データ/製品データ/
 動的製造装置カタログ/他

動的製造装置カタログ(3)
 ※ 製造装置毎の共通データ構造
 環境データ情報モデル(2)
 ※ 分野毎の共通データ構造

※ ↑ 経産省委託事業の関連規格 ※

データ共有基盤
 ※ 主権保護

